

# 年中行事と保育

月島幼稚園保母 蒔田ソヨ

新體制の聲は今や巷に氾濫し、既に産れ出た新たな政治體制に對して、人皆は、各々その持場に於て翼賛の誠を致さん誓つてゐるのであります。

我執を捨て、己の持場を守る。誰れの言葉であつたか、之こそ今の現在の私たちの新體制に處すべきゆるぎない態度ではないでせうか。日本國民鍊成の教育の第一段階を受持つ私たち、教育の焦點に對して深い反省と批判を加へつゝ國家の理想に向つてたゞへ足ざりは小さくとも、新體制に翼賛するの矜持を大にしたいものであります。

新年度からはいよいよ國民學校案も具體的に實現致します折から、國民幼稚園としての幼稚園の保育を反省し如何にあるべきかを考へてみる又、無益な事ではないと存じます。

明治時代に濫觴し未だ發達の過程にあるとも見るべき、我が國幼稚園の保育主題が季節行事によつて推行されてゐるさいふこさは、生活主義保育として幼児の身邊にその題材を求めた當然の歸結ではありますが、何さいふ當を得

た主題であり、優れた保育課程であることとせう。

我が日本民族の間に行はれてゐる數々の行事は、悠久な歴史と共に年々、歳々之を繰り返すことによつて、その内容は時代と共に變遷し、陶冶されて來たものでありませうが、永い歴史を背景とする行事、盛んに行はれる行事こそは最もよくその社會や、民族や、國家の個性、思想、信仰を具體的に表象してゐるものであると考へられます。つまり皇國の道を端的に表すもの之こそ行事ではないかと思ひます。

日本人である私たちは祖先の歩いて來た道程を又、現在生活してゐる郷土國家を、行事を繰り返すことによつて、より強く意識し愛するの念を禁じ得ないのであります。

以上考へます時に現代日本の歴史的使命の前にかゝる年中行事が如何に重大な役割をなすか言を俟たないのであります。この意味に於て年中行事こそは最も壯重に、且つ最も印象的に行はるべきでありませう。

殊に幼稚園にあつては、あらゆる保育項目の動員によつ

て體驗し印象つけることに依つて、國家社會の行事を行ふ意志を正しく理解させ、以つて生涯の思想や行動の基をはつきり築きたいと思ひます。否、幼児の現在の生活態度を皇國民として、之によつてはつきり訓練づけたいと思ひます。

それには私たちの行事に對する深い認識と指導精神を正確に把握することが、最も大切なことであります。

保育主題として取り入れられてゐる行事は申すまでもなく、幼児を對象とし幼稚園を中心とした極一般的なものでありまして、大體之を四つに分けて考へることが出来るこ存じます。

國家的儀式、日本古來の傳統によつて行はれて來たもの、社會の施設強化を目的とするもの、それに幼稚園の行事であります。

國家的儀式は申すまでもなく宮中に於て行はせられる行事で、祝祭日がそれでありませう。我等臣民の宗家である皇室の祭祀を共に奉齋し、皇室のよろこびを以つて臣家の祝となす、誠に意義ある行事であります。古來より我が國は個人と家庭、家庭と國家との關係は密接不離なものでありまして、畏くも 聖上陛下には君民一體の實をお舉げ遊ばされるを御理想させられ、臣又僥倖を國家と共にするを、よろこびましたのでありまして、ここにこそ我が國民精神の

精華を見るこが出来悠久二千六百年の歴史を誇り得る、又宜なる哉であります。

その中四大節は何處の幼稚園でも拜賀式を舉行致しますが、飽までも壯重に嚴肅にありたいもので、小學校に附屬した幼稚園でありまして、單獨で行ふ場合も小學校低學年と一緒にふ場合も色々ありますが、御眞影奉安殿を備へない、又勅語奉讀を行はれない幼稚園單獨のお式に比べますと、小學校と合同の場合の方がはるかに嚴肅に禮法も正しく行はれるやうであります。唯一つ、いさゝか勝手の異なる如く考へられてゐる幼稚園參加のために、式場の集團禮法がたさへわづかでも、徹底を期し得なかつたならばこの御迷惑を考へること、今一つは園長先生の式辭の直接對象となり得ないこと、今一つは園長先生の式辭が難しくとも、奉祝歌が終りまで歌へなくとも、あの尊嚴な式場の空氣の中に一時なりとも體を置いて以つてその寮園氣の中に皇國民としての感激を得たならばそれで好いのではないでせうか。否、それよりもつと望ましいことは幼稚園のみの式に御眞影が奉拜出來、お勅語奉讀が行はれさうして可愛い感激に満ちたお式が行はれたなら喜んでよいこととせう。式日唱歌については種々論のある所でありませうが、式場での唱歌は一番だけ位は文部省制定のものを歌はせてよいと思ひます。幼児たちは母や又兄弟たちによつ

て多少は聞き覚えて居り、一種の國民歌として普及してゐるのでありますから、式後、各部屋それ／＼の年齢に即して、平易に今日の式の由來を話し幼稚園の式日唱歌等を歌つて終ります。或は式場を出てそのまゝ近くの神社に参拜する等、皇室の尊嚴、皇國民としての感謝の念を養ふと共に、正しい集團訓練をかうした時にしつかり植ふけたいと存じます。國民奉祝の時間の默禱等も同様であります。

その他祭日は休日になつてゐますので其の前日に祭日のお話をし、前後は祭日に因んだ保育事項によつて保育を進展させて行く事は何處の幼稚園でも同じことと存じます。唯ここに出来るならば幼児に直接體驗せしめたい、例へば靖國神社の例祭であつたならばその前後に行はれる園外保育を、こゝに選んでその神殿に類づかせる。神嘗祭が近づけば近郊の田園に秋の遠足をした折の觀察をこゝに導き、私たち日常の食物に對する感謝を持參のお辨當の中に味はせる等、飽まで實際子供の經驗によつて日本國民としての自覺と感謝を子供に體得させたいものであります。

この祭日に對して家庭ではあまり關心を持たないやうであります。子供たちを通じてその祭日の意義を知らせるべく務めたいものです。それには祭日に對する優しい唱歌を作成していただくのも方法でせう。或は幼稚園便り等に

分り易く書くことも必要でありませう。

第二の日本古來の傳統によつて行はれる行事は郷土特有の環境より必然的に發展し行はれてきたもので、古くは朝野の儀式として風俗として盛んであつたものが今では國民的行事となつたもの、即ち五節句、お月見、お盆、お彼岸、節分等かうした中に入るべきでせうか。

之等の祭りは最もよく民族の傳統、感情を象徴してゐると思ひます。祖先の祀つた人形を、子々孫々之を祀つてはその祖先を偲ぶ。月を仰いで祖先の美を感得し、靈を祀つてはその靈と語り得るの信仰、我々祖先の美を美とし、眞を眞とする處に民族本來の道を體認し得るのではないでせうか。之等の行事を主題とする保育は最も活潑に各保育項目に發展して、幼児の情操を高め、民族性を豊にしてゐるのであります。お雛様を飾らない幼稚園もなく、七夕様の傳説を知らない保育者もある如く、家庭の眞隨に立つ幼稚園の教育の一大特色はこのあたりに存するのではないかとさへ考へられる程です。

幼稚園は之等の行事を行ふことによつて家庭のリーダーとして、正しい行事の實踐により民族性の昂揚に努むべきであります。

次に社會教化を目的とするもの、之は今日の所謂一億一心目的の貫徹に努むべく行はれるものであつて、國家或は

國民に大なる刺戟を與へた事件の記念日、即ち陸海軍記念日、震災記念日、滿洲國獨立記念日及び承認記念日、日支事變記念日、教育勅語下賜記念日等、或は興亞奉公日、防火デー、體育デー、蟲齒豫防デー、交通道德デー、防空演習その他であります。

之等は幼兒を保育室内にのみ止めず、街頭にまで進出して社會の一單位として、社會の秩序に對して鍛鍊させるべきであります。勿論保育項目の活用も實際的體驗を基とし、以つて皇國の一員としての自覺と信念を誇らせるべきであります。殊にかうした行事は單なるその場のみの訓練に止まらず、賤として日々無意の行動をも律する所までの根氣が大切であります。

その他幼稚園を主體とする行事であります。入園式修了式、創立記念日、運動會、遠足會、身體檢査體重測定、唱歌遊戯會等、教育主體の行ふ行事にて又國家社會の行事とその趣意に於て異なる處のあるべき筈がありません。

斯く考へます時に日常の國民生活の感激が昂揚し、盛り上つたものが行事となつて表れるのではないかと、少なくも心理的にはさうあるべきではないかと思ひます。つまり日常保育の集約が行事となるのだとも解釋が出来るかと思ひます。

以上年中行事を通じて主として賤し訓練について考へて

みたのでありますが、かゝる既定の行事の他に或は滿洲國皇帝陛下の御來朝、或は花子さんのお父様の出征、或は日獨伊三國同盟等々、の季節的人事や自然に對してその保育主題は實に豊富に又その取材も自由であります。私たちは單なる時流に銜ひ際物的な保育に陥らないやう、ハツキリした信念の下に環境に即した適切な主題を選ぶことが先づ大切な事ではないでせうか。今一つは即ち既成品的な手技や、或は唱歌によつて徒らに幼兒を混迷刺戟することなく、眞に明朗な皇國民を育成したいものであります。

#### 「國民幼稚園」

昨年夏の文部省講習會で、倉橋主幹が「國民幼稚園」といふ言葉を用ゐてから、諸方面の注意を引いてゐますが、本號から引つゞきその解説を本誌に掲げます。尚ほ講習の講演速記は抜刷にして各方面に配布せられ、その要約論文が文部省發行の「文部時報」十一月號に續載せられてゐます。又同題目の下に、杉並保育聯盟、靜岡縣保育會、茨城縣保育會、神田區保育會等で講演が行はれ、更に本月十五日には千葉縣保育會で、十六日には名古屋の大乗報恩會保育講演會で、同一題目の講演が行はれる筈です。幼稚園の國民教育的充實と、國民教育的普及こそ急務です。